

登録コード	UAF22500	開講年度	2026				
授業題目	教育心理学演習					担当教員	島田 英昭
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学						
	【研究科共通】自身の専門分野における高度な知識と技能を有する。					⇔	教育心理学に関して、自身の専門分野における高度な知識と技能を身につける。
	【研究科共通】量的・質的分析方法を身につけると同時に、各領域独特の解析手法を学習し、分析力を培うとともに、領域間における手法の差異を認識することにより、各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。					⇔	教育心理学に関して、量的・質的分析方法を身につけると同時に、各領域独特の解析手法を学習し、分析力を培うとともに、領域間における手法の差異を認識することにより、各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を身につける。
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学						
	【心理・長野臨床以外】心理学分野の高度な知識・技能を有する。					⇔	教育心理学に関して、心理学分野の高度な知識・技能を身につける。
	【心理・長野臨床以外】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に应用する能力を有する。					⇔	教育心理学に関して、量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を身につける。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を身につける。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に应用する能力を身につける。
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理・長野臨床】心理学分野の高度な知識・技能を有する。					⇔	教育心理学に関して、心理学分野の高度な知識・技能を身につける。
	【心理・長野臨床】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に应用する能力を有する。					⇔	教育心理学に関して、量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を身につける。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を身につける。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に应用する能力を身につける。
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。					⇔	教育心理学に関して、心理学分野の高度な知識・技能を身につける。
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に应用する能力を有する。					⇔	教育心理学に関して、
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。					⇔	教育心理学に関して、量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を身につける。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を身につける。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に应用する能力を身につける。
(2)授業の概要	教育心理学に関する研究法について議論する。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：科学と実証、実験と観察 第3回：実証の手続き、独立変数の操作 第4回：従属変数の測定、剰余変数の統制 第5回：さまざまな実験法、コンピュータ・シミュレーション 第6回：心理学に特有な問題、調査法 第7回：観察法、検査法 第8回：面接法、研究の実施 第9回：結果の解釈、統計的分析 第10回：研究報告 第11回：具体的研究事例を通した研究法の吟味（実験研究） 第12回：具体的研究事例を通した研究法の吟味（調査研究） 第13回：具体的研究事例を通した研究法の吟味（現代的な統計手法） 第14回：具体的研究事例を通した研究法の吟味（倫理的問題） ※受講者の研究計画と興味に応じ、内容を変更することがある。 ※授業アンケートを実施する。						
(4)成績評価の方法	●以下を総合して判定する。 議論への参加（100%） ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ※教育心理学に関する基礎的・応用的な知識や関心を評価する。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						

(5)成績評価の基準	【卓越している】教育心理学に関する知識・技能等について、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】教育心理学に関する知識・技能等について、非常に高い水準にある。 【やや上にある】教育心理学に関する知識・技能等について、高い水準にある。 【その水準にある】教育心理学に関する知識・技能等について、一定水準にある。
(6)事前事後学習の内容	●研究に対する情報を収集する。 ●研究に対する自らのアイデアや実験・調査結果をまとめる。 ●授業内容について、振り返りを行う。 ●授業内容について、書籍やネットなどで復習し、理解を深める。 ●この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。
(7)履修上の注意	心理学分野の学生を主な対象とした授業であるが、他分野の学生も相談の上受講が可能である。
(8)質問,相談への対応	原則としてメールで対応する。
【教科書】	高野陽太郎・岡隆（編）(2025). 心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし― 第3版 有斐閣アルマ
【参考書】	内容に応じて随時紹介する。